

cheridae) が *Astropecten polyacanthus* についてゐたのを 30 年 3 月 6 日に水産の山田君が見付けられたが、parasitic Isopoda では *Anisomysis* につく *Irodajus*, *Hippolytes* につく Bopyridae のもの、*Cyprilina* につく Cryptoniscidae のもの等いろいろ面白いものがある。parasitic Cirripedia では *Certanardoa* (28 年冬) と *Astropecten calamaria* (30 年) とにそれぞれ異つた種類の *Myrioclauius* (*Dendrogaster*) が居つた。片つばしからヒトデを破いて行けば又別なものが出るかも知れない。大變美しい *Sipunculus nudus* が 29 年 1 月に諸磯の奥でとれ、*Thalassema mucosum* が 28 年 7 月 4 日に、*Th. gogosimense* が 29 年 7 月 8 日に採れてゐるのは近ごろ珍しい事である。Amphioxus は近年では 27 年か 28 年に城ヶ島の砂濱で、29 年小網代の入口を dredge した時いづれも一つづつとれたが 30 年 8 月には 4-gill slits の larva が一つ採れた。

〔所員の更迭その他〕 昭和二年七月以來専心實驗所發展の爲に盡して下さつた囑託大島正満博士は 1930 年 3 月 31 日を以て御しりぞきになり、東京府立高等學校教授に御榮轉。代つて囑託惠利恵氏來任。これより前 1 月永年小使をやつてゐた藤崎忠太郎退き、伊藤滿藏が之に更り、おかみさんにはやつぱり賄をやつてもらふ事になった。

年々實習に來る學校がふえるので教官専門の宿舍が一棟新しく學生寄宿舎の西側に建つた。六疊三間のささやかなものだが風も當らず、明るくて氣持のいい家だ。1930 年の 1 月から電話が開設。突然やつて來られて、惡天候、時期尙早、一物をも得ずして歸ると云ふ様な事のない様この文明の利器を御利用願ひます (三崎 179)。

諸磯灣をへだてた實驗所の對岸、谷津先生の Villa tripini の下から白洲へかけて一帯の埋たてが 30 年の春頃から實施されてゐるが、30 年の夏頃は折角埋めた赤土が浪に洗ひ出されて海面全體にひろがり、重さんなど随分採集に困つた様だが、今ではやつと石垣が一部分出來たので割合に被害はなくなつた。けれども昔からバラ濱とまで呼ばれ、近頃あまり採れなくなつても我々のいい遊び場所であり、貝類の採集所であつた所が埋立てられ、近くて都合のよい諸磯の奥の郷戸濱の泥ほりの場所まで失くするのかもしれない。出來上る石垣に何か面白いものでも着かないかと、それだけを一縷の望みにしてゐる。

前回報告した通り水族室は標本室と共に有料で公開し、年一千圓以上の収入を擧げてゐたが、もとより臨時のものとして不備の點が多く、又今の場所では研究の支障にもなるので、今年度中に水族館を新設、鐵骨二階建(二階は標本室)延坪數百餘坪の立派なものにする由。敷地は實驗室に隣接した荒井濱の松林、道路がよくなり、すべてきれいになるのは何よりも結構だが、うまく交通が整理されて、ビール瓶片手に赤手拭首に巻きと云ふ連中が研究室前の芝生へなだれ込んで來る様な事のない様今から望んでやまない。舊水族室は實驗室に改造されるさうだがこれが何よりもものたのしみ。ここではもう人が歩いても卵が顯微鏡下でおどり出すと云ふ様な事はない。

(吉 井 脩 雄)

鶏 卵 は どう 出 る か

此問題は簡単なやうで中々議論があつた。1929 年に AUGUST EBER が 66 羽の白レグホーンに就いて實見した所に據ると 125 回は尖つた端が先に出で 2 回は圓い端が先に出た由。 (谷 津 直 秀)

衣 蛾 の 幼 蟲 衣 蛾 を 食 ふ

衣蛾が毛織を食ふのは既知の事實であるが衣蛾 (*Tineola biselliella*) の幼蟲が毛織物よりその成蟲の弱つたもの又は死んだものを好んで食するのは耳新しいことである。

(谷 津 直 秀)